



会報第8号

発行所 立校会
栃木県高等学校
真岡農業高等学
同窓会
編集人 部
同 上 編 集
印刷所 所
森田印刷



(収穫祭 全校生徒の踊り)

少年非行



大正十四年度卒

同窓会長

田上

昇

世故に「親のいうことはきかないが、先生のいうことはきく」と、昨日、今日のお話しの思っている、しばらく前の話とか。

偉い人といっても世間様という政治家の信用の低さは先

刻承知だが、教師の仰ぐ先生方の信用と尊敬の低下は予想外である。おそらく東条さん以来でしょう。

それにしてもたった二十年のうちにこんなにも教師像、生徒像が変わるなんて想像外だ。ただ思い出すことは「聖職」と尊敬された職場を自ら捨てて「われらも労働者の仲間」と労働者と一緒になっ

て職場斗争を演じ、前衛的役割を果敢に遂行して成果を挙げた。生徒の方は御苦勞様という気持ちになれなかった。

所謂、生徒のためではなく自分の生活向上のために生徒の教室を捨ててストライキに走ることは理解できないだけ

でなく、子供心を傷つけた。唯物観に立った先生方は争議にもストライキにもいささかも悪びれず驚き顔の生徒に一片の釈明もなかった。

子供心にも先生のイメージは音をたてて崩れていったろう。

唯物観に立てば尊敬心や友

歴史と伝統に輝く

真農校就任に際して



校長 岡本 茂

昭和五十二年三月まで、五か年間勤務をさせていただき

ましたが、その後、県農業短大、矢板高校にそれぞれ三カ年づつ勤務をいたしました。本年度の勤務となりまして、五

か年間住みなれた真岡市は、私にとりまして、いわば第二の故郷であります。懐かしさと共に、因縁浅からぬものを

感じ、微力ながら最善を尽くす所存であります。何とぞ指導のほど、お願い申し上げます。

同窓各位には、母校を訪れる機会も少ないこと、存じますが、母校教育の一端を

紹介申し上げます。昭和四十七年、大野原の農場に隣接した、下龍谷町に新校舎が完成し、学校敷地約五ヘクタール

の農場面積十八ヘクタール余りの、近代的な施設設備が整いました。加えて、一昨年度全

国学校緑化コンクールにおいて、最優秀賞を獲得、さらに昨年に引き続いて、日本学校

農業クラブ大会で意見発表の部に、見事二年連続最優秀賞の栄冠を獲得するなど、名実共に全国に誇り得る農業高校になりました。

本校教育の最大の課題は、申すまでもなく、地域に密着した農業後継者の育成にあり

であります。各位の一層のご支援とご指導を、お願い申し上げます。

農業はもっと開き直れ



昭和五十一年度

青年部長

青木 良雄

日本の農業と農村は、単に食糧の安定供給だけでなく、

地域経済の発展、自然環境や国土資源の保全など多目的な役割をもっていると思えます。また、就業人口でも二三パーセント、国内総生産では一二パーセントと高く、消費支出をみても、全国ほとんどの地域で三〇パーセントを超えています。このように、農業生産と農家の消費活動は、地域経済と密接な関連があると

思われます。今や、地方の時代になりつつあるのです。多くの国民に定住と就業の場や緑の空間を提供し、農業と林業とがならんで洪水や土壌流失の防止、水資源のかん養、大気の浄化などの面で大きな役割を果たしていると思えます。農業過保護論がと

びかう中で、農業・農村・農民が果している「目に見えない役割」を私達は、見落しているのではないのでしょうか。今、強いアメリカ農業を指しせず、「二世紀は日本型農業」という日本農業の見直しを強く訴えているのを見受けることがあります。今までのアメリカ農業や欧州諸国の農業に一步でも近づいたことが最近考えられ、進んできた日本の農業にとって、それ自体

が果して、いつまでも安泰かどうかという目で見ると、弱さ、もろさがあるように思えます。まず、水不足と砂漠化の進行、表土の流亡、そして金儲けだけの農業に向い、経済合理主義や物質万能主義が大手を振り、巨大な食糧生産力を誇る反面、貧困な生活は、量的に満ちたりていても、何かも足りないが残っていると思えます。アメリカ農業が強大であればあるほど、それだけ地力を収蓄し、自然破壊を止め、やがては、生産力そのものの伸びが止まり、下降線をたどることになるのではないのでしょうか。盛大さに隠されたアメリカ農業の意外な面を感じます。

日本の農業は、豊かな水と森林に支えられた土の上に定着した環境保全型農業といわれ、そこには豊かな人間性を育む農村地域社会と山海の産物を組み合わせた誇るべき、食生活があるように思えます。外庄に負けない職業として日本の農業は、明快なビジョンを現実なものとするために、今、生きていく私達の責務ではないのでしょうか。

昭和四十七年三月に、本校から宇農高に転動して以来十二年目にして、再度本校に勤めることになって約一年。その間、過去を思い、これからを考え、いろいろ感ずることの多い毎日を送ってきた。

（今では卒業生）が、すっかり一人前に成長している姿に驚いている。私の歓迎会を開いてくれた幾つかのグループ

で、集った人たちの自己紹介を通して近況を聞いたが、どの卒業生も想像以上に各方面で活躍し、態度も考え方も見違えるほど立派になり、これからの当地域は我々が背負って立つのだという意欲に満ちて、誠にたのしい。その中で特に感じたことは「農業をやっている」「専業です」という卒業生の数が多いことである。農業が小さく見える昨今の状況の中で、『ここに農業がある』と発見に似たものを感じている。若い力が地域に根づき、力強く伸びる姿は実にすばらしい。彼等の周囲に、不動の地位を築いてきた多くの先輩の実績があつてこれに援けられ、ここに到っていることは想像に難くない。やがてこの卒業生たちが後輩を支えて、さらに地域の力を高めるであろう。

二年生の自営希望者を対象とした先進農家の現場実習が夏休みに行なわれた。それぞ

れ四日の短期間ではあるが、受入れ農家に泊り込んで、経営と家庭の実態を見学し、生活を体験すると同時に、技術や考え方を、さらには人間としての生き方を学ばせようとするもので、生徒にとっては三

か年の学校生活の中でも、特筆すべき貴重な勉強ができた筈である。

実は、その成果を上げ得た背景には、受入れ農家の犠牲的な協力があったのである。私は生徒の実習中に巡回してこれらの農家の見事に驚嘆した。何という悠然たる、確乎とした経営であることか。本腰を入れてやろうとすればこれだけの農業ができるというところに、我がことのような誇らしさを感じた。しかも、その経営者の殆んどは、本校の卒業生であり、勿論地域のリーダーである。他にもまだ沢山の方がおられるであろうが、これだけの先輩が周囲にあつて、いろいろな機会にお力添えをいただける後輩たちは、誠に幸である。特に将来も地元にあつて生きねばならぬ長男にとっては、このよう

なつながりが、広く、強く是非とも必要であることを肝に銘じて、大切にしなければならぬと思う。

地域社会を支えるもの

教頭 豊島 向上



昭和四十七年三月に、本校から宇農高に転動して以来十二年目にして、再度本校に勤めることになって約一年。その間、過去を思い、これからを考え、いろいろ感ずることの多い毎日を送ってきた。

菊地幸作前会長御逝去



本会の前会長であられた菊地幸作氏が、去る一月二日、午前四時、心不全のため真岡市東郷一三〇の自宅で逝去なされた。享年八十七歳。

真岡市、市議会、本校同窓会など十団体による合同葬儀が一月六日、真岡市付属体育館で菊地恒三郎真岡市長が葬儀委員長となり、体育館職員が司会者となり、いとしめやかなうちに盛大裡に取り行なわれた。

本会からは田上会長が葬儀委員長となり弔辞を奉読して同窓会一同を代表し、深く哀悼の意を表しました。

菊地前会長は、明治四十五年、当時芳賀郡立農林学校といつた本校を卒業し、属望されて町農会に入ったのが官界入りの第一歩で、その後県属として知事官房入りを果し、内務部商工課長、知事官房秘書課長(高等官五等)などを歴任しました。

戦後は郷里の真岡に帰り、商工会や初期農協の結成には、校舎・講堂等の新築にご尽力なされた。

そして、学校を現下籠谷の大野原に新築移転するの大計画が決定するや地元負担金の募集、関係市町村への協力依頼に日夜奔走され、現在の農業高校の基礎を築かれたのであります。

夫・喜一郎を偲ぶ



過去は美化されると申しますが共に歩んだ三十年の道のりは山あり谷ありの人生でございました。

どなたも同じこと「子育ての時期」そして「子供の成人の時期」と一つずつの節目を栽培し、他人に配って上げる

同窓会前事務局長夫人

柏崎 佐智子

のが好きで一生懸命手入れをし実入りを喜んでおりました。病氣らしい病氣もせず、自然と親しんでいる人に突然、悪魔が飛びかかり、あつと言間に連れて行ってしまいました。

昨年の今日(一月七日)胃の痛みが治らないからと言つて胃カメラをとりましたら即入院を宣告されましたが本人は「切除してしまえば痛みもなくなるし、楽になるから」と言つて進んでベットの依頼をして来たのです。

私は余りにもせつかなやりに方々へ病状を説明して病院は一つだけてないんだからもう一つ別な面から見ていただけたところをとお訪ね診断をしていただきましたが結果は同じ手術の必要ありでございました。

思い切つて一月十八日に開腹いたしました胃には小さな悪魔がいました。それが悪魔を肝臓へ広がつて居りました。進退極まるとはこの時の心境でございます。

開けてみせられた時は何の言葉もございません。

ただ、ベストを尽くしていただきたと申しました。

結局は試験開腹でございまして、どうにか治せる」と自分はいきかぜから一心不乱に看護いたしました。

それは妻として当然のことでございますが何しろ私共は共働きでございますので日中は私が留守になり家政婦のみです。夜と退院してから

小林善蔵元校長御転宅



昨年の十月十六日、住み馴れた真岡の地と、あの高台の邸宅を離れて、長男の幹雄様と同居するため引越した。思えば太平洋戦争の真

つ最中の昭和十七年に真岡の土を踏まれて、昭和二十六年からは、同窓会とPTA等のご芳志により寄贈された住宅に入居され、かれこれ四十余年間、真岡農高を中心に沢山の人間と交友が結ばれた。

いよいよ私の手ではどうにもならなくて、救急車で再入院の時のサイレンの音は身体が裂かれるような痛みで私の全身を駆け巡りました。

夫婦の別れと言ふのは本当にさびしい、悲しいものでございませう。健康の時はお互に言いたいことを言い合つていて最後は妻であり夫である者同士、助け合ひだとしみじみ感じました。

前世紀からの宿命でこの世で結び合った夫婦でございます。私共は二人合せて一人前の仕事も出来ない者同志でございます。主人は職務だけは一生懸命に果たしていただくように思つて居ります。

同窓生の若い皆さんと研修に参りました時などは楽しみが一杯と言つて感で創立八十年の記念事業の準備だけはしなればと意気を燃して居りました。

五十五才の人生は余りにも短くやりたいことを沢山の世に残して五十八年三月三十日に他界いたしました。

生前、同窓生の皆様にお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

世話になりまして申し訳ございませんでした。厚くお礼申し上げます。

支部だより

支部組織として毎年の事業計画も予算も決算もないが本校七十周年記念事業以来、当支部も休みの状態、責任者として誠に申し訳なく思つて居りました。たまたま、南高農協青年部の真農出身者三十三年度より五十四年度卒業生有志により同窓生支部会員の有志が計画され、去る十二月二十五日農協福祉会館に於て開催され盛況裡に終了することができました。

支部の主催者並に事務所に厚く御礼を申し上げます。同時に、同窓会並に真農高の近況を報告致しました。是を機会に有志会を「有志会」として発足する運びとなり、今後の為種々の話題が提起されました。

一、目的は親睦を図りつゝ、より良い社会の構成に役立ち又各自の英知の發揮に努めること尚、今日あるを感謝し

やみません。尚新しい住所は次の通りですが、会員の皆様からお便りを差し上げて戴ければ、お互いに伴せにつける存じます。

神奈川県大和市南林間 三二二二 電話〇四六二一七四一〇

小林幹雄様方 小林善蔵先生

青年部 研修旅行に参加して

昨年度に於いての研修旅行は十二月一日、二日の日程で、前部長田山副部長坂本

場を見学致しました。特に園芸試験場ではトマト、イチゴ、のハウス栽培について研修致し最も気になる省エネ栽培について現場での説明を聞きまし

新装してまだ一年足らずのロイヤルホテルが私達を待っていてくれました。午後六時から懇親会は楽しいムードで盛況に有意義に終り、翌日は鹿島神宮を参拝し、筑波学園都市を経由して、十六時三十分真農に着きました。今後も

支部のこれから思う

支部のこれから思う

支部のこれから思う

支部のこれから思う

支部のこれから思う

支部のこれから思う



青年部研修 茨城県畜産試験場にて

やったー天川さん最優秀賞

―農業クラブ全国大会意見発表―

なります。

第三十四回日本学校農業クラブ全国大会が去る十一月十一、十二日、福岡県久留米市において開催されました。

そこにおいて、意見発表、農業生活や農村に関する部で本校生活科三年の天川弥子さん(真岡市上鷲谷三三三)が全国から選ばれた多数の精鋭と競い合い、堂々、最優秀賞の栄冠を獲得しました。

意見発表とは農業クラブ員が日常の生活体験をもとにした意見を持ち時間七分で発表しあうもので、天川さんは校内の意見発表会で代表に選ばれ、栃木県大会、関東地区大会と次々に最優秀となり、全国大会へと駒を進めていたものでした。

農業クラブでの全国大会優勝は昨年、山口県で開催された全国大会でも、本校生活科三年の田村国子さん他六名がプロジェクト発表、農業経営に関する部で最優秀賞を得ておりましたので、これで二年連続の快挙をなし遂げたことに上会長のはじめ理事全員の

NHK青年の主張全国コンクール

栃木県大会でみごと優勝!

本校同窓会青年部副部長、藤田芳君が今年のNHK青年の主張の栃木県大会において「わが青春、ここに打ち込む」と題して発表され、みごと優勝を挙げました。

叙 勲

(五十八年十一月三日)

勲六等単光旭日章 自治功労

羽石 智氏 74才

茂木町鮎田一四六六

大正十五年卒

町議四期十六年



農業委員長
芳賀北森林組合長



学校祭での同窓会青年部即売



天川さんの表彰式が終って同窓会役員と共に

立派な弓道場が完成

本年度の弓道部は、女子の活躍が目ざましく、関東大会県予選女子団体の部で初優勝を飾りました。これは弓道部創設以来のことです。関東大会では、惜しくもベスト十二位でした。本大会には、三年の藤木、栗原、田村の三選手が出場しました。

また九月の中部地区大会では、女子個人優勝、女子団体第三位でした。

本校弓道部は、これまで不便な練習場で活動してきましたが、この度各方面のご支援により、六人立の立派な弓道場が、同窓会館西側に完成しました。本工事に先立って先生方、生徒諸君の御協力で西斜面を整地した後、十二月に着工し、二月に射場と壕(あづち)が建てられたのです。



完成した弓道場

活動報告―農業クラブ

農業クラブ 今年の歩み

日本学校農業クラブ全国大会は今年度で第三十四回目を迎えた。

今をさかのぼれば昭和二十四年度が第一回目にあたることになる。

全国大会での過去十年間、(第二五、三四回)の各種発表各種競技での最優秀賞獲得数を本県関係の高等学校について実績調査をしてみた。

真岡農業高等学校が三回、宇都宮農業高等学校が一回受賞と云うことで、本県では四回受賞したことになる。

念願の弓道場の建設が実現し、顧問の一人として、私も感謝の気持ち一杯です。来年度からは、この御厚意に答えられるよう部活動の活発化を計っていきたく思っております。御協力をお願い致します。(顧問 石崎)

活動報告

茂原農高を視察して……

去る、九月二十七日に他校視察ということで、茂原農高を視察して来ました。

小雨交じりの天気の中、茂原農高には予定の時間より、三十分程度遅れて到着しました。

校門を入ると、ゴミ一つ落ちてなく、小雨に濡れている庭木が妙に印象的で、とても美しい学校だなと思いました。

バスを降り、玄関に入ると二列に並んだあちらの役員の方々が「いらっしゃい、ようこそ、こんにちわ……」などとお互いにとても明るく私たちを迎えてくれました。

農場見学では、傘のなかった私たちに「傘に入りませんか」やさしい言葉かけてくれ、すぐに親しくなれました。

農場では、行き届いた設備と真農高にもまさるガラスハウスの数、そして実習中の生徒たちが何の戸惑いもなく、「こんにちわ」とあいさつを交わしてくる、とても気持ちよかったです。

活動報告

家庭クラブ

家庭クラブでは、今年度も多くの活動を計画し実行いたしました。ここでは、それぞれの活動分野から生徒の感想を紹介いたします。

研究的な活動の一つとして夏休みの六日間、三年生全員



生徒役員・新東京国際空港にて

何を言っているのかわからなかったが、だんだん慣れてくるに従ってわかってきたような感じがしました。このように教科書の理論を体験することにより、更に理解を深めることができました。

次に奉仕的な活動の一つとして大楽園慰問を行いました。

「去る六月四日、私達は大楽園に手作りのお菓子を持って行って来ました。私は大楽園に着くまで不安でいっぱいでした。両親のいない子供達とどう接したらいいのか、もしいじけた反抗的な子がいたらどうしようかと思っていました。でも、大楽園に着いたとたんその不安は消えました。子供達は笑顔で私達を迎えてくれたのです。一人も私が考えていたような子はいませんでした。その笑顔は両親のいない寂しさをこらえているようなそんな印象でした。この子供達には、沢山の愛情が必要だと思えます。私はこの施設慰問で、多くの事を学び、また来年も参加したいと思っています。」



大楽園の子供たちと共に

編集後記

暦の上では立春も過ぎたのに寒い日々が続きます。二月も終りに近づいた今日、同窓会会報の八号の編集のために集まった室の外にも、今年六回目の春の雪。

会報も回を重ねて、八号を教えるにいたりました。この会報が、私たちの母校を核とした同窓生の心のよりどころにそして心のむすびつきをささえるものとなればと感じつつ



編集を進めています。編集にあたって、原稿をお寄せくださった方々に心からお礼を申し上げます。この会報が、より多くの人に読まれ、同窓会の健やかな発展になればと思いつつ編集後記にします。(編集者一同)